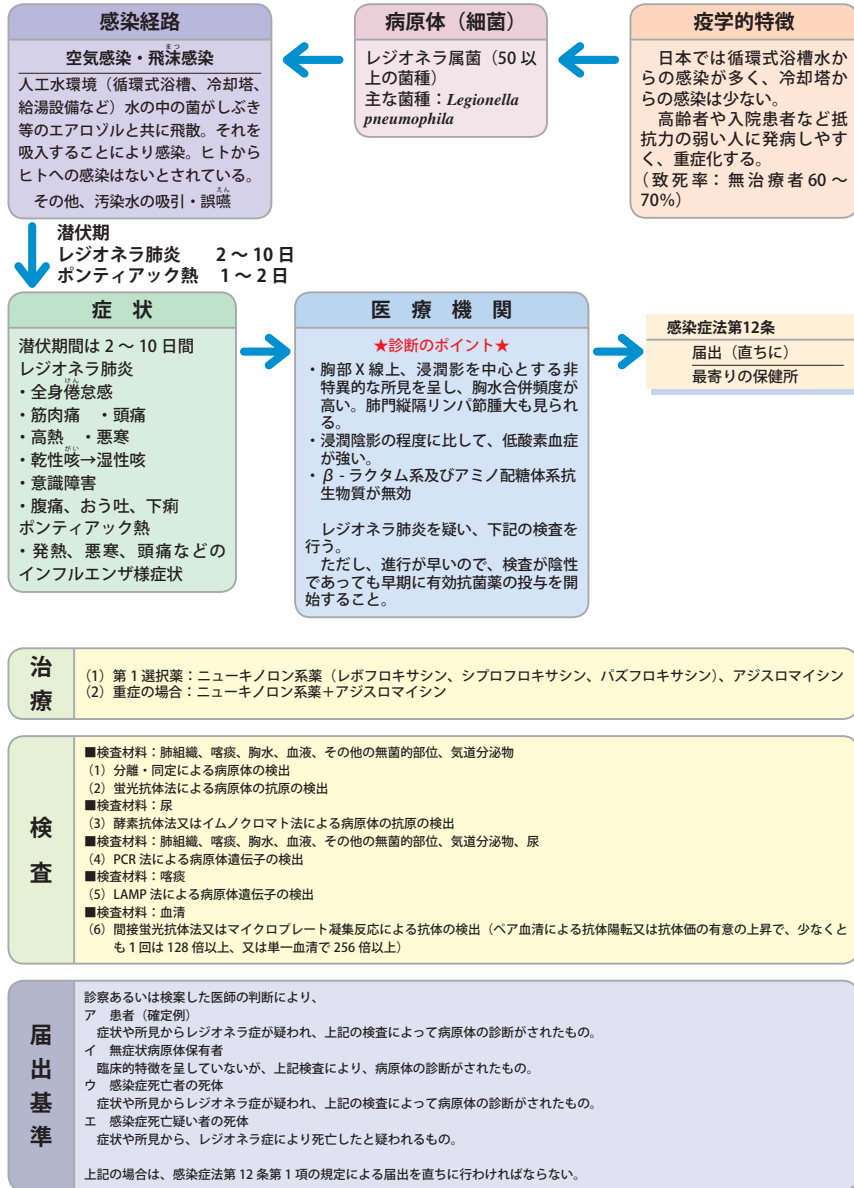


(41) レジオネラ症 ……四類感染症

Legionellosis



参考図書

- (1) 日本呼吸器学会 成人肺炎診療ガイドライン 2017
- (2) 国立感染症研究所レジオネラ症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ra/legionella/392-encyclopedia/530-legionella.html>
- (3) Ginevra C et al : Host-related risk factors and clinical features of community-acquired legionnaires disease due to the Paris and Lorraine endemic strains, France. Clin Infect Dis 49 : 184-191, 2009.
- (4) Shimada T et al : Systematic review and meta-analysis urine antigen tests for legionellosis. Chest 136 : 1576-85, 2009.
- (5) 厚生労働省レジオネラ対策のページ <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/seikatsueisei25/index.html>

発生状況

国内9研究における市中肺炎原因病原微生物を解析した結果においてレジオネラは第10位である。報告数も年々増加しており2015年は1,592人であった。ただし、海外報告数に比して低い傾向にあり実際には十分に診断されていないとの指摘もある。

臨床症状

レジオネラ肺炎：レジオネラ症の大半を占め、肺炎を主徴とする。全身倦怠感、筋肉痛、発熱等の非特異的の症状で始まり、乾性咳、喀痰、胸痛が出現。腹痛や下痢等の消化器症状も見られる。中枢神経系症状が早期に出現するのも特徴。有効な抗菌薬治療がなされないと、致死率は60～70%に上る。

ポンティアック熱：発熱を主症状とし、全身倦怠感、悪寒、頭痛、筋肉痛などを伴う。肺炎は見られない。予後良好で、2～5日で自然治癒する。散発例では診断は困難。

高齢者、糖尿病、慢性呼吸器疾患、悪性腫瘍、血液疾患、喫煙者、大量飲酒者、免疫抑制剤使用、臓器移植後、自己免疫疾患など感染防御能の低下した患者では、発病のリスクが高い。

検査所見

レジオネラ肺炎は胸部X線上、浸潤影を中心とする非特異的な所見が多いとされるが、すりガラス陰影と混在する浸潤影が特徴的であるという報告がある。胸膜炎の合併頻度が高い。肺門縦隔リンパ節腫大もときに見られる。早期に低酸素血症が見られる。

本菌はグラム陰性桿菌であるが、検体中ではグラム染色性が弱いので、ヒメネス染色、あるいはアクリジンオレンジ染色が必要。

菌の分離：BCYE αやWYO α培地などの特殊培地が必要。培養には4-7日を要する。

尿中特異抗原の検出（*L. pneumophila* 血清群1を検出）：感度74%、特異度99%。簡便であり早期診断に有用。しかし、日本のレジオネラ肺炎では*L. pneumophila* 血清群1は約83%という報告があり、他の血清群については注意が必要。

血清抗体価の上昇（IFA）：感度80%、特異度99%、抗体価上昇までに4～8週間かかること、重症例では上昇しないことがあるので要注意。単一血清で1：256倍以上。ペア血清で≥4倍の上昇かつ一方の値が1：128倍以上。

LAMP法による遺伝子の検出：感度91%、特異度100%。行える施設が限られている。

特異抗体による菌体の染色（Direct Fluorescent Antibody, DFA）：感度50%、特異度95%

病原体

レジオネラ属菌。50以上の菌種がある。自然界の土壌や淡水（川や湖）に広く生息。*Legionella pneumophila* が代表的菌種。細胞内増殖菌であり、アメーバ類などの原生動物内で増殖する。

感染経路

本菌が人工水環境（循環式浴槽水、冷却塔水、給湯水など）中に侵入し、その中で生息するアメーバなどの原虫類の細胞内で大量に繁殖し、そのエアロゾルを吸入して感染する。日本では循環式浴槽における感染事例が多くを占めている。ヒト-ヒト感染はないと言われている。

潜伏期

レジオネラ肺炎の潜伏期は2～10日。ポンティアック熱は1～2日。感染源が広く自然界に存在するため、感染機会は常に存在する。

拡大防止

エアロゾルとして飛散する可能性のある人工水環境（冷却塔等）中のレジオネラ属菌と、その宿主となるアメーバ類、及びしぶきの発生を少なくする。人が多数集まるビルやホテル、病院などでの定期的な点検・清掃・細菌検査の実施。患者が発生した場所の水利用設備の清掃・消毒など。

旅館、公衆浴場等におけるレジオネラ症防止対策については厚生労働省のホームページに詳細が述べられているので、参照されたい。